

2025 年 01 月 14 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【全く、何も急ぐ必要は無い】

新しい年になって、約 2 週間が過ぎた。

毎年、新しい年が明けると、外国為替の市場参加者は「やる気満々」で、積極的にポジションを取りたがるものだ。

しかし、今年の「ドル円市場」の値動きを見ると、市場参加者が出そろった感覚が無い。

マーケット（ドル円市場）に厚みが無く、プライス（値）が飛び易い。

それは、市場参加者が少ないということの証左である、と考えます。

+++++

もう少し、具体的に話そう。

先週末（2025 年 1 月 10 日）のニューヨーク市場は、米国雇用統計の発表だった。

米非農業部門雇用者数（N F P）は、+25.6 万人で、市場予想の+16.4 万人を大きく上回った。

失業率も 4.1%で、市場予想の 4.2%よりも良かった。

+++++

この先週末（2025 年 1 月 10 日）の米国雇用統計が発表されると、その直後、マーケット（外国為替市場）は、「ドル買い円売り」に激しく反応した。

しかし、ニューヨーク・クローズに向かい、激しい「ドル売り円買い」となり、安値引けとなった。

+++++

この日（2025 年 1 月 10 日）を振り返ると、東京市場でも値動きが荒く、大きく上下動したのだが、ニューヨーク市場での米国雇用統計の発表後の値幅は、それよりもさらに大きかった。

ニューヨーク市場の高値・安値は、東京市場の高値・安値をそれぞれ突破した。

+++++

こういった値動きになることは稀だ。

荒れた東京市場の高値・安値を、ニューヨーク市場の高値・安値が、それぞれ凌駕したということは、この日のニューヨーク市場が大きく乱高下したことに他ならない。

+++++
+++++

大きく乱高下した、ということは、市場参加者の思惑がバラバラで、「売り方」と「買い方」が共に存在した、ということ。

そして、今のところ、その思惑が、一方に収れんする様子は見えていない。

+++++
+++++

それでは、出そろっていない市場参加者は、何を待っているのだろうか？

それは、トランプ大統領の就任式が終わることだ、と考えます。

トランプ大統領が正式に就任した後で、具体的に、どのような政策を打ち出すのか、そして、それを確認した上で、今後の方針を固めよう、と考えているのだろう。

+++++

今年（2025 年）のマーケット（外国為替市場）は、始まったばかり。

全く、何も急ぐ必要は無い、ゆったりと構えて参入すればよい、と考えています。

+++++
+++++

（2025 年 01 月 14 日東京時間 14：05 記述）